

# 評価規準作成の手引き 高等学校芸術科（音楽）

## 題材及び単位時間における評価規準作成の手順

下記の題材例を基にして、評価規準の作成の手順について説明します。  
 参考資料「年間指導計画（1月）」と「学習指導案」を参照してください。

科目 音楽  
 題材名 「和楽器の体験と伝統音楽の特徴」（全9時間）  
 ・教材 「こきりこ」「島唄」「さくら さくら」

### 題材の指導目標を明確にする

- ・年間指導計画における各題材の構想段階で、学習指導要領に示す「芸術科の目標」と「音楽の目標」及び内容の年間指導計画への位置付け方を検討し、各題材の指導目標を明確にします。参考資料では、以下のように題材の指導目標を設定しています。

「篠笛」「三線」「箏」の演奏や楽曲の鑑賞を通して、それぞれの楽器の表現方法や日本の代表的な音階（民謡音階、沖縄音階、都節音階）を理解するとともに、我が国の伝統音楽に親しみをもつことができる。

### 題材の指導に関連する内容のまとめ【表現(歌唱、器楽、創作)、鑑賞】と観点を明確にする

本題材の内容のまとめは、表現（器楽）と鑑賞です。題材の学習内容がそれぞれの内容のどの観点と関連しているのかを明確にしたのが、下記の 印になります。  
 本題材の学習内容は、和楽器（篠笛、箏、三線）と民謡等の鑑賞です。鑑賞では、表現と鑑賞との関連を図り、楽曲の雰囲気や曲想の変化を聴き取る力（鑑賞の能力）を付けることに重点をおくことを示しています。

国立教育政策研究所教育課程研究センターが示した資料の「内容のまとめごとの評価規準」から、 印に該当する評価規準を取り上げる

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
器楽				/
鑑賞	.	.		
内容のまとめと評価規準	【器楽】 いろいろな楽器の特質や奏法、視奏、曲の構成及び曲想に関心をもち、意欲的に器楽表現をしている。	【器楽】 音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、器楽表現を工夫している。	【器楽】 楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に器楽表現するための技能を身に付けている。	【鑑賞】 楽曲をその歴史的背景と関わらせ、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を理解し、聴き取っている。

\* 内容のまとめごとの評価規準は、本資料の次の欄を参照してください。  
 【器楽】 「内容のまとめごとの評価規準」 - 「2 A 表現（2）器楽」  
 【鑑賞】 「内容のまとめごとの評価規準」 - 「4 B 鑑賞」

## 題材の評価規準を設定する

題材の評価規準は、「 で設定した『題材の指導目標』を生徒が実現している状況を把握する評価の窓口」であると同時に「題材全体の指導を通じて生徒が確実に身に付けてほしい資質能力を評価の観点ごとに整理して具体的に示したもの」です。

具体的には、教育課程研究センターが示した「評価規準の具体例」（まとめごとの評価規準を具体化したもの）から題材の指導内容と関連が深いところを抜き出してまとめます。

参考資料では、以下のように題材の評価規準を設定しています。

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
題材 評 価 規 準	和楽器（篠笛、三線、箏）の固有な表現方法や美しさに関心を持ち、意欲的に器楽表現している。	和楽器（篠笛、三線、箏）の体験を通し、固有の表現方法や美しさを感じ取って器楽表現を工夫している。	和楽器（篠笛、三線、箏）の体験を通し、固有の表現方法で美しく器楽表現する技能を身に付けている。	音階や楽器の奏法を理解し、篠笛曲や箏曲等の楽曲全体を聴き取っている。

## 単位時間における評価規準を設定する

生徒の学習状況を的確に把握するために、 で設定した「題材の評価規準」を具体化する「単位時間における評価規準」を設定し、学習活動の適切な場面に位置付けて評価をします。

「単位時間における評価規準」は、「題材の評価規準」と「本時のねらい」から、願う姿を明確にして設定します。

参考資料では、本時の展開で以下のように「単位時間における評価規準」を設定しています。

題材の評価規準（創造的な表現の技能）	単位時間における評価規準
和楽器（篠笛、三線、箏）の体験を通し、固有の表現方法で美しく器楽表現する技能を身に付けている。	三線の伝統的な楽譜（工工四）を見ながら、左手のポジションを正しく押さえて演奏している。

指導に生かす評価を充実するために、評価の方法と指導・援助を明確にし、どの生徒も評価規準の姿に高めることができるよう授業実践する。特に、Cとする生徒をBに高めることに全力を注ぐことが大切

評価の方法	<観察> 左手のポジションを確実に押さえているか観察し評価する。
指導・援助	小指を移動する「七、八、七」のポジションを、唱歌を歌いながら繰り返し練習する。

なお、評価計画を位置付けた題材指導計画を作成する際の参考資料として、「教科目標、評価の観点及びその趣旨」「科目目標、各科目の評価の観点の趣旨（音楽）」、「内容のまとめごとの評価規準」を次ページに掲載しました。

「評価規準の具体例」については、国立教育政策研究所教育課程研究センターの資料を参照してください。

## 教科の目標、評価の観点及びその趣旨

### 1 教科の目標

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かに情操を養う。

### 2 評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて芸術のよさや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。	創造的な芸術表現をするために必要な技能を身に付けている。	芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わう。

## 音楽 の科目の目標、科目の評価の観点の趣旨

### 1 音楽 の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

### 2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心をもち、意欲的に音楽活動をしようとする。	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取って創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージを表現するための技能を身に付け、それを生かして創造的に表現する。	多様な音楽に対する理解を深め、創造的に鑑賞する。

## 内容のまとめりごとの評価規準

音楽においては、「A表現」及び「B鑑賞」2領域相互の関連はもとより、各領域内の内容についても必要に応じて相互の関連を十分図ることによって、総合的な深まりと広がりのある音楽活動がより活発に行われるよう配慮することが求められています。

国立教育政策研究所教育課程研究センターが提示した資料は、「A表現・歌唱」「A表現・器楽」「A表現・創作」「B鑑賞」の4つの「内容のまとめり」ごとに、以下の観点から評価規準が示されています。

内 容 \ 観 点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
表現（歌唱・器楽・創作）				
鑑賞				

題材の評価規準は、題材を通して付けたい力に関連した「内容のまとめりごとの評価規準」を総合して作成することになります。

各内容のまとめりごとの評価規準は次のとおりです。詳しくは、国立教育政策研究所教育課程研究センターの資料を参照してください。

1 A 表現 (1) 歌唱

(1) 学習指導要領の内容

- ア 曲種に応じた発声の工夫
- イ 視唱力の伸長
- ウ 歌詞及び曲想の把握と表現の工夫
- エ 合唱における表現の工夫

(2) 「歌唱」の評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
曲種に応じた発声、視唱、歌詞及び曲想に関心をもち、意欲的に歌唱表現をしている。	音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、歌唱表現を工夫している。	楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に歌唱表現するための技能を身に付けている。

2 A 表現 (2) 器楽

(1) 学習指導要領の内容

- ア いろいろな楽器の体験と奏法の工夫
- イ 視奏力の伸長
- ウ 曲の構成及び曲想の把握と表現の工夫
- エ 合奏における表現の工夫

(2) 「器楽」の評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
いろいろな楽器の特質や奏法、視奏、曲の構成及び曲想に関心をもち、意欲的に器楽表現をしている。	音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取って、器楽表現を工夫している。	楽曲から感じ取ったイメージを、創造的に器楽表現するための技能を身に付けている。

3 A 表現 (3) 創作

(1) 学習指導要領の内容

- ア いろいろな音階による旋律の創作
- イ 旋律に対する和音の工夫
- ウ 音楽の組み立て方の把握
- エ いろいろな音素材を生かした即興的表現

(2) 「創作」の評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能
音階や和音、音楽の組み立て方、音素材に関心をもち、それらを生かして意欲的に創作や即興的表現をしている。	音楽の諸要素を知覚し、それらが生み出す表情の変化を感じ取って、創作や即興的表現を工夫している。	自己のイメージをもち、創作や即興的表現をする技能を身に付けている。

4 B 鑑賞

(1) 学習指導要領の内容

- ア 声や楽器の特性と表現上の効果
- イ 楽曲の歴史的背景
- ウ 我が国の伝統音楽の種類と特徴
- エ 世界の諸民族の音楽の種類と特徴

(2) 「鑑賞」の評価規準

関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	鑑賞の能力
声や楽器の特性と表現上の効果、楽曲の歴史的背景、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴に関心をもち、意欲的に聴いている。	声や楽器の特性と表現上の効果を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさ、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を感じ取っている。	楽曲をその歴史的背景と関わらせ、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽の種類と特徴を理解し、聴き取っている。

指導と評価に関するキーワードとその意味等

キーワード	意味等
絶対評価	学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価。 <u>目標に準拠した</u> 評価。
相対評価	学年、学級の中での相対的な位置付けを明らかにする評価。 <u>集団に準拠した</u> 評価。
個人内評価	児童生徒ごとのよい点や可能性、進歩の状況などの評価。 <u>努力を要する点</u> を伝えることも必要。
指導と評価の一体化	評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、 <u>指導に生かす評価を充実</u> すること。評価のための評価に終わらないこと、評価ができる指導をすることが大切。
観点別評価を進める上で大切なこと	<p>「おおむね満足できる状況」として示した評価規準に照らして評価を進める。</p> <p>児童生徒の学習の状況や結果が、B（おおむね満足できる状況）であることを確認する。</p> <p>Cと判断する生徒の学習状況にまず意識を向け、少しでもBに近づくよう指導・援助を継続する。</p> <p>その上でA（十分満足できる状況）に質的に高まったと判断できる点を把握する。</p> <p>* 単位時間ごとの評価規準を明確に設定しておくことが必要。</p>